

(資料編)

- ◇ 検証報告書作成までの経緯
- ◇ 生徒・教職員アンケート結果
- ◇ ブロック活動で「身に付けたい力」(ブロック活動の振り返り用紙)
- ◇ ブロック長会主催「ブロックの日」プレゼンテーション原稿

1 検証報告書作成までの経緯

①教育委員会事務局として協議

- ・検討会議 計9回

②有識者から知見を得る

2017年

- 7月 4日 鳴門教育大学 前田洋一氏（教科センター方式有識者）訪問
- 11月15日 まち楽房有限会社 加藤武司氏（コミュニケーションデザイナー）訪問
- 11月17日 黒川設計事務所 校舎建築コンセプト説明（和歌山県有田町議会視察時）
- 11月28日 元東洋大学教授 長澤悟氏講演会（大口中学校教員研修会）
演題「教科センター方式のもつ可能性」

③地域社会との関わり

- 12月17日 大口町地域協働フォーラムにて事例発表
発表題名「中学生のがんばりを伝えたい」
※大口中学校卒業生（高校2年生）と共同発表
「大口中学校で過ごし、今に生きていること」

④議会答弁

2018年

- 6月 6日 「大口中学校の教科センター方式の中身について」
- 9月 6日 「大口中の学力の現状と学力向上対策について」

⑤教育委員を交えて

2018年

- 2月21日 総合教育会議 教育現場の現状について意見交換
- 6月26日 研修視察 福井市至民中学校
- 6月27日 研修視察 同志社中学校
- 7月31日 研修視察における意見交流会
（教育委員と参加中学校教員との意見交流）

⑥ 4小中学校長を交えて

2018年

ア 6月20日 2020年度授業日に関する検討会議

(※4小中学校長を交えて、授業時間が増える事への対応について協議)

イ 9月18日 同 第2回会議

(※4小中学校長を交えて、多忙化に関する抜本的解消策について協議)

ウ 10月30日 同 第3回会議

(※31年度の年間行事計画の作成段階における、多忙化解消の方策について協議)

エ 1月7日 同 第4回会議

(※授業時間が増えることと、多忙化解消に関する対策として、週日課の在り方について協議)

⑦ 卒業生・在校生の声

ア 2017年

12月17日 大町地域協働フォーラムにて事例発表

(③再掲) 発表題名「中学生のがんばりを伝えたい」

※教育委員会と大口中学校卒業生(高校2年生)との共同発表

卒業生の発表項目「大口中学校で過ごし、今に生きていること」

イ 2018年

10月26日 サポートルームさくら 学生講師ヒヤリング

ウ 11月「教科センター方式・ブロック活動に関するアンケート」の実施

⑧ 学校現場を交えて

ア 2017年7月31日

研修視察における意見交流会(再掲)

(教育委員と参加中学校教員との意見交流)

イ 2018年11月

「教科センター方式・ブロック活動に関するアンケート」の実施 (再掲)

2 生徒・教職員対象のアンケート結果

平成 30 年 11 月、大口中学校全校生徒、および、職員を対象に、7 つの項目に対してアンケート調査を行いました。その結果について、次ページから掲載します。

尚、アンケート対象者として、「職員」とあるアンケート結果は、教職員の手応えとして、生徒がどのように感じているだろうかを推察し、答えたものです。